

鳥取砂丘ビジターセンター 山陰海岸国立公園の取り組みについて (鳥取砂丘景観復元事業やパークボランティア)

これまで 100 年にわたり、千代川の下流地域では洪水対策や港の拡張、防波堤建設のために工事が行われてきました。こうした工事は、自然な砂の増加を効果的に抑えてきた一方で、海岸線の侵食を加速させています。そこで鳥取県は 2005 年から、河口や近隣から集めた砂で海岸線を補充する取り組みを進めています。絶滅が危ぶまれる動植物の保護を伴う保全活動は、侵略的外来種の侵入を防ぐことや、観光地として砂丘を効果的に管理することなど、他にもまだあります。ゴミのポイ捨てや、いたずら書きによる外観の損傷を食い止める取り組みは 2009 年から継続して実施されています。現在、レンジャーは毎日付近を巡視するだけでなく、旅行客のガイドやサポートも行っています。

景観と自然を両方とも一切損なわずに鳥取の砂丘を保全する取り組みは、市民のボランティアの皆様の助けを借りて、今日も続けられています。2008 年、山陰海岸国立公園は日本ジオパークに指定されました。2015 年にはユネスコ世界ジオパークにも認定されています。2018 年 10 月に設立した鳥取砂丘ビジターセンターは教育面で重要な役割を担い、この「砂丘」という生きた海岸博物館の継続的な保存活動に対して、人々の意識を高めたり、支援を集めたりするための展示や奉仕活動を行っています。